

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一1:26～31 「無に等しいもの」

[26]「兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんください。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません」

パウロがこの手紙を書いた時にはコリント教会は非常に高ぶりと混乱の中にあった。パウロは彼らを救われた時の原点に立ち返らせようとしている。クリスチャンとなった人々の中で多くは貧しく無学で教養もない人々であった。しかし、この世的に見れば単純、幼稚、下層階級とみられる人々に神は御力を現して下さった。→マタイ11:25～26

[27-29]「しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。これは、神の御前でだれをも誇らせないためです」

コリントにおける福音伝道によって人間の基準による差別というものは乗り越えられ、逆転させられた。知恵ある者、強い者はずかしめるために愚かな者、弱い者を神は選ばれた。同じように、この世で取るに足りない者や見下されている者も、神によって選ばれた。それはこの世の権威あるもの、はばをきかせているものをない者のようにするためであり、神の御前でだれをも誇らせないためであった。コリント教会はこの原点に立ち戻らなければならない。

人間的な力を誇り、高ぶっているコリント教会への警告、それはまたそのような誤りに陥る可能性のあるすべての教会への警告である。

[30]「しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました」

コリント教会の人々にとって最も重要なことは「キリスト・イエスのうちにある」新しい立場である。それは、キリストと人格的に親しく交わる者とされ、キリストと霊的に一体とされたことを意味する。「神の知恵」とは具体的には神の御子イエス・キリストによってもたらされた神の救いの計画のこと。これは人間にどんな説明をしてもとうてい信じられないほどの神の計画、神の知恵である。→使徒13:41、ハバクク1:5

神は救いのためにキリストを立て、信じる者はキリストの十字架のゆえに、神の前に正しい者、義なる者、きよめられて聖なるものとされ、罪贖われた者とされた。神はキリストのゆえに信仰者たちをそのような者として受け入れてくださるのである。

[31]「まさしく、『誇る者は主を誇れ』と書いてあるとおりになるためです」

ここはエレミヤ書9:23～24からの引用。

人間的な基準、この世の立場、力、権力を誇るのではなく、無に等しいものを救いに召して下さった主なる神のみを私たちは誇らなければならない。